



# 図書館だより

2026年  
4月24日発行  
秋草学園高等学校 図書館

1年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。すでにオリエンテーションで図書館に触れてもらったと思います。秋草記念館で生徒が自由に入出入りできるのは、「生徒ホール」「トイレ」そして「図書館」だけです。図書館が不自由なのは「飲食できない」「キャーっと言えない」だけです。あとはマナーを守りつつ普段の教室やご自宅の生活態度でOKです。

図書館に来るときは「生徒証」を持っているといざというとき便利です。生徒証は本を借りるのに必要ですし、「あ、ピアノひきたくなっちゃった」と突然思いついてもピアノ室が借りられます。ただし、生徒証はとても大事なものですから、忘れたりなくしたりは注意してください。もうすぐカードの生徒証が届きます。いっぱい活用しましょう。

## 2026年本屋大賞決定！！

下馬評通り(司書の感想)の結果です。売り上げもすごいです。

- 1位 913.6-ア『イン・ザ・メガチャーチ』  
朝井リョウ//著 日経BP日本経済新聞出版  
「ファンダム」という言葉を一般化させたヒット作品です。教会の話?と思いきや推しの話です。タイトルは、アメリカなどの教会での若者を集めるためのレクリエーション的な集會を指します。対して日本の「推し活文化」の具体例として三人三様のファンダムを描いています。はたしてファンダムは人を幸福にするのか生活を破壊するのか?
- 2位 913.6-サ『熟柿』佐藤正午//著 KADOKAWA
- 3位 913.6-ム『PRIZE—プライズ—』  
村山由佳//著 文藝春秋
- 4位 913.6-ナ『エピクロスの処方箋』  
夏川草介//著 水鈴社
- 5位 913.6-ミ『暁星』湊かなえ//著 双葉社
- 6位 913.6-ノ『殺し屋の営業術』野宮有//著 講談社
- 7位 913.6-ヘ『ありか』瀬尾まいこ//著 水鈴社
- 8位 913.6-ト『探偵小石は恋しない』  
森バジル//著 小学館
- 9位 913.6-セ『失われた貌』櫻田智也//著 新潮社
- 10位 913.6-イ『さよならジャバウォック』  
伊坂幸太郎//著 双葉社

## 本屋大賞 翻訳小説部門

本屋大賞翻訳小説部門 1位 2位のどちらも上下巻です。最近の小説は長めになっているのでしょうか。

953-ガ-1,2『空、はてしない青』  
メリッサ・ダ・コスタ //著 講談社  
フランスで今一番読まれている作家さんの小説です。余命少ない病気の若者が、残りの人生をどのように生きるのか、人々の中でどのようにふるまうのか考えさせられます。タイトルが爽やかなので気に入ります。

B933-マ-1,2『ハウスメイド』  
フリーダ・マクファデン //著 早川書房  
映画化されています。メイドさんの映像を見る限り「ゴシックホラー」かなと思いきや「心理スリラー」だそうです。

## 新着コーナーの気になる本

『デコピンのとくべつないちにち』  
大谷翔平, マイケル・ブランク //文  
ファニー・リム 絵//著 ポプラ社  
大谷翔平選手の愛犬「デコピン」、始球式(2024年8月)の映像はみんなをびっくりさせ、「デコピン賢い!」という声であふれました。その日の出来事(たぶんフィクション)を描いた絵本です。大谷選手は本の売り上げは全部寄付とおっしゃっています。この本を読んで動物愛護に自分も貢献しているんだと自信を持ってください。



## 司書の今月はこの本読みました

本をあまり読まない司書ですが、NHK朝の連ドラ「風、薫る」の原案『明治のナイチンゲール大関和物語』(田中ひかる/中央公論新社/B289.1-カ)を読みました。ドラマは架空の2人の看護婦(2002年までの看護婦の名称)の嚆矢のお話ですが、本書は作者が学術的に検証した事実を群像劇風にまとめています。ただし、会話の口調などは小説を読むのとなら変わらず、す〜とお話にのめり込めます。

作中に登場する『Notes on Nursing』は『看護覚え書き』(フロレンス・ナイチンゲール/日本看護協会出版会/492-カ)の原書です。現在では当たり前になっている公衆衛生や医療技術が淡々と記述されています。170年前にはまったく常識ではなかったのです。看護婦の存在意義を理解してもらおうのがどんなに大変だったことか。

看護師になりたい!という人には『看護師になるには』(川嶋みどり/ベリかん社/375-ナ-13)をお勧めします。将来の自分を思い描くには不可欠な情報です。



【横関】